



第27回 岐阜シンポジウム

再生医療最前線 2013

～日本で再生医療は実現できるか?～

岐大祭
同時開催

平成25年

11月2日 土 10:00～12:30

岐阜大学講堂 岐阜市柳戸1-1(図書館1F)

入場無料 申込み不要

ただし、団体で参加される場合は事前にご連絡願います。
会場の席数には限りがございますので、お時間に余裕を持ってお越し下さい。

再生医療最前線2013

概要

京都大学の山中伸弥先生がノーベル賞を受賞され、世界的に再生医療への関心が高まっています。マスコミなどで、明日にでも実用化されそうな勢いで報道されている「再生医療」。実は、それほど簡単な話ではありません。たとえば、iPS細胞はそのまま移植すると、テラトーマという腫瘍を作ってしまうというselfishな一面も持っています。そこで、今回の岐阜シンポジウムでは、動物の体内でiPS細胞の運命を完璧にコントロールして、臓器そのものを作るというユニークなアイデアを進めておられる、東京大学の中内啓光先生をお招きしてお話をうかがいます。また、福光秀文先生、手塚建一先生には、岐阜大学で採取された歯髄細胞で、脊髄損傷を治療する研究について、紹介していただく予定です。

◆ 一般講演 10:05~10:40
「岐阜大学歯髄細胞コレクション」

岐阜大学・医学系研究科組織・器官形成分野・准教授
手塚 建一

岐阜大学では、医療廃棄物として大量に入手できる若年者の親知らずから細胞を取り出し、約300サンプルの研究用ヒト歯髄細胞コレクションを構築しました。その白血球型を解析したところ、HLAハプロタイプホモという大変めずらしい型の細胞を得る事ができました。この細胞を使えば、あらかじめ大量の細胞を用意しておいて、脊髄損傷などの緊急性を要する場面でも、再生医療がおこなえる可能性があります。今回は、このめずらしい型を持った細胞を使った未来の再生医療についてお話したいと思います。



◆ 一般講演 10:40~11:15
「脊髄損傷の細胞移植療法開発への試み」

岐阜薬科大学・生体機能解析学大講座分子生物学研究室・准教授
福光 秀文

脊髄は末梢組織と脳の知覚、運動神経情報の伝導路であり傷害されると運動麻痺や知覚障害に陥ることとなります。現在のところ有効な治療法はありませんが、これを克服しようとする試みは世界的に活発化しています。化学療法と細胞療法とに大別されますが、今回は細胞療法の現状について紹介するとともに、岐阜薬科大学・岐阜大学の共同研究グループが推進している研究の一部についてもお話したいと思います。



◆ 基調講演 11:25~12:25
「iPS細胞が可能にする新しい医療」

東京大学・医科学研究所幹細胞治療研究センター・教授
ERATO中内幹細胞制御プロジェクト
中内 啓光

iPS細胞作製技術の確立により“自身の多能性幹細胞”を利用する道が開けました。患者や正常人から樹立したiPS細胞は、これまで考えられなかった新しい医療を可能にするでしょう。我々の最近の研究を紹介しながら、ノーベル賞に輝いたこの素晴らしい技術が切り拓く新しい医療の可能性について概説します。



- 主催／岐阜大学医学系研究科
- 後援／岐阜県、岐阜市、岐阜県教育委員会、岐阜市教育委員会

■アクセスマップ

- ◎バスでお越しの方／岐阜大学・岐阜大学病院行き JR岐阜駅(北口)バスロータリー3番のりば 名鉄岐阜駅4番もしくは5番のりば
- ◎お車でお越しの方 岐大祭期間中の土曜日及び日曜日は、岐阜大学構内の駐車場を一般開放しておりますので、直接岐阜大学までお越し下さい。



■お問い合わせ

国立大学法人
岐阜大学

岐阜大学 学術国際部 研究支援課
TEL 058-293-2195 FAX 058-293-3209
e-mail : gfsympo@gifu-u.ac.jp

※当日は、岐大祭も開催しております。様々な屋台が出店予定ですので、ぜひお立ち寄りください。また、午後からは、第二食堂で岐阜大学が誇る最先端の研究発表の「パネル展示」も開催されますので、併せてご参加ください。

